



昭和19年4月20日 兵庫県立医学専門学校一回生入学記念145名入学



神緑会館(手前平屋建て)と事務棟・附属病院外来棟全景(左奥に旧第一病棟を望む)
平成13年11月



明治2年に開院した神戸病院。手前の建物番屋前の左再山(再度山)道の道標(矢印▲)は現在も残っている。



入口へ見通す神緑会館通路

目次	ページ
平成30年度一般社団法人神緑会臨時(社員)総会並びに学術講演会プログラム	3
「定年退職にあたり」海外留学のすすめ 大北 裕	6
オーストラリアでの心臓胸部外科医への道 川西雄二郎	7
ドイツ留学体験記 高橋 宏明	9
「追悼文」加藤藤信君(昭和27年卒)を偲んで 吉田 著	11
昭和58年卒同窓会便り 矢谷 暁人	11
神緑会ホームページ、リンク登録について	13
「武田 廣学長を囲む懇談会」ご出席のお礼	15
第13回神戸大学ホームカミングデイ	16
第6回神緑会ヤングインベスティゲーターアワード発表会	17
第2回神緑会美術展	18

目次	ページ
第2回神緑会美術展美術展をおえて 藤谷 哲造	18
清野進特命教授が日本学士院賞受賞	20
神戸大学深江グラウンド芝生化事業 常深隼太郎	22
シンポジウム「神戸から拓くiPS細胞の未来」	24
山中先生のご講演についての感想 *赤井 陽至	25
神戸大学医学部創立75周年・神戸病院創立150周年記念事業の寄付呼びかけ 上辻 浩夫	26
平成30年10月末時点での寄付者数	27
ご寄付のお願い 宮崎都志幸	28
スポーツ大会の開催について *大野 聖真	29
平成19年卒 同窓会開催のお知らせ 西尾 真理	29
循環器内科は神緑会員の急性冠症候群をお救いします!! 田中 秀和	30
編集後記	30

*学生

34階には神戸市街、大阪湾を一望するダイニング、
35階にはスカイラウンジ

34階レストランから望む、神戸港、三宮、
北野～新神戸界隈の街並み、六甲山（南西～北西方向）

今は自由にアクティブに暮らしたいけれど、将来の介護は不安という方へ

介護付有料老人ホーム
（一般型特定施設入居者生活介護）

入居時自立

サンシティタワー神戸

所在地：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通2-3-5



34階レストラン



外観/平成29年4月撮影
土地・建物/事業主体非所有(賃借)



1階中庭

タワーでありながら緑豊かな中庭は1600㎡の癒しの空間。
リゾートホテルのような快適さで、豊かに暮らせる安心の住まい。



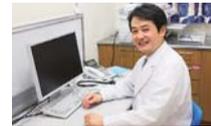
ロビー



温水プール

安心の医療支援体制と介護体制

将来介護が必要になっても、要介護者3人に対してケアスタッフ(看護師含む)2人以上という手厚い介護人員体制



岩永メディカルクリニック
※同一建物内診療所(別法人)



斜向かいに神戸赤十字病院
※近隣の医療機関

予約不要のレストラン、大浴場、温水プール、フィットネスルームなど共用部が充実。

要予約

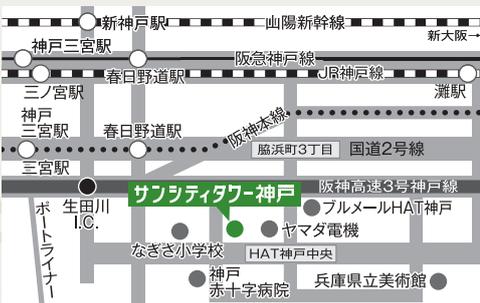
個別見学会開催

無料シャトルバス
三宮・元町へ
毎日8便運行

資料請求・見学のお申込みはこちらまで

受付時間/午前9:00～午後5:00(土日祝日も受付可)

0120-33-1655



【施設概要】●所在地/神戸市中央区脇浜海岸通2丁目3番5号●敷地面積/12,431㎡●建築面積/5,861㎡●延床面積/57,391.40㎡●構造規模/RC造(一部S造)、地上35階●一般居室数/483室(37.30㎡～112.76㎡)、介護居室数/91室91床、一時介護室/4室4床(20.8㎡～25.61㎡)●主な共用設備/レストラン、温水プール、男女大浴場、美容室その他●土地・建物の権利形態/事業主体非所有●建物竣工/平成29年4月●開設年月/平成29年6月●事業主体・運営管理/㈱ハーフ・センチュリー・モア●返還金制度/あり【協力医療機関】■住友病院(大阪市北区中之島5-3-20、施設から約33km)●主な診療科目/一般内科、リハビリテーション科、心臓血管外科、神経内科、放射線科ほか●協力内容/生活習慣病予防健診に利用できます■兵庫医科大学病院(兵庫県西宮市武庫川町1-1、施設から約18.5km)●主な診療科目/総合内科、外科、眼科、整形外科、脳神経外科ほか●協力内容/高度医療を必要とする場合の入院、外来、緊急時の対応、人間ドックに利用できます【同一建物内クリニック】■岩永メディカルクリニック(別法人)●主な診療科目/内科、外科、消化器内科、糖尿病内科、リハビリテーション科【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示事項】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/全額前払い方式●入居時の要件/入居時自立、満70歳以上の方●介護保険/神戸市(兵庫県)指定介護保険特定施設、神戸市(兵庫県)指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上■入居申込書の記載事項に虚偽があったり、月額利用料の支払いを正当な理由なくしばしば遅滞した場合、他のご入居者や従業員に危害を及ぼす等の行為がある場合、その他入居契約書に定めた条項に違反された場合は、相当の催告期間の後に契約を解除させていただくことがあります。■お客様の個人情報は、資料の発送や見学会のご案内のほか、各種の統計調査に利用する場合があります。

(株)ハーフ・センチュリー・モアは大手企業約100社が出資する資本金120億円で、借入金のない会社です。

【主な出資企業】三井住友銀行・みずほ銀行・三菱UFJ銀行・西日本旅客鉄道・三洋電機(パナソニック)・塩野義製薬・ダイキン工業・ヤンマー・江崎グリコ ほか

平成30年度 一般社団法人神緑会 臨時(社員)総会並びに学術講演会プログラム

平成31年1月19日(土) 於・神戸大学医学部附属病院外来診療棟6F大講義室

- ☆ 開会の挨拶 (15:00)
- ☆ 物故会員への黙祷
- ☆ 平成30年度一般社団法人神緑会臨時(社員)総会 (15:10~15:40)
 - 1. 委員会報告等
 - 2. 審議事項
- ☆ 新任教授・栄誉者紹介 (15:40~16:15)

<<休憩>>
- ☆ 新春学術講演会
 - I. 講演『Basic science に根ざした消化器内科診療を目指して』 (16:25~16:55)
 神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 消化器内科学分野 教授
 児玉裕三(平成6年卒)
 - II. 講演『自己紹介と神戸大学における教育・研究の展開』 (16:55~17:25)
 神戸大学大学院医学研究科 生体構造解剖学分野 教授
 仁田亮(特別会員)
 - III. 講演『「下から」の医学科改革を目指して』 (17:25~17:55)
 神戸大学医学部医学科5年生 塚本修一
- ☆ 閉会の挨拶 (17:55)
- ☆ 情報交換会(於:神緑会館多目的ホール) (18:10~20:00)

新春学術講演会 プロフィールと講演要旨

■講演 I

児玉裕三(こだま ゆうぞう)



神戸大学大学院医学研究科
内科学講座 消化器内科学分野 教授

略歴

1994年 神戸大医学部卒業 神戸大学老年医学講座入局(研修医)
 1995年 兵庫県立淡路病院内科 研修医
 1996年 明石市立市民病院消化器内科 医員
 2005年 京都大学大学院医学研究科修了、医学博士
 2005年 米国コロンビア大学 研究員
 2007年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校 研究員
 2010年 京都大学大学院医学研究科 消化器内科学講座 助教
 2016年 京都大学医学部附属病院 内視鏡部副部長兼任
 2017年 京都大学大学院医学研究科 消化器内科学講座 講師
 2018年 神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 消化器内科学分野 教授
 現在に至る

演題「Basic science に根ざした消化器内科診療を目指して」

講演要旨:平成30年4月1日より消化器内科分野教授を拝命いたしました。消化器内科の領域は、消化管・肝・胆・膵と対象臓器が多く、その対象疾患もがん・生活習慣病・感染症・免疫疾患など極めて多彩です。また、内視鏡治療技術の進歩に加え、新しい抗ウィルス薬や抗腫瘍薬の登場など、それぞれの臓器領域における診療内容は目覚ましい発展を遂げています。このようなに時代こそ、我々は内視鏡分野の先端技術をリードすると同時に、疾患の本質を見据えた地に足のついた消化器内科診療を目指すべきであると考えます。本講演では、これまでに取り組んできたの難病の病態解明研究をご紹介させて頂き、基礎研究の知見をどのように医療の現場へと活かしてゆくか、消化器内科診療の課題と将来展望について述べたいと思います。

■講演Ⅱ

仁 田 亮 (にった りょう)



神戸大学大学院医学研究科
生理学・細胞生物学講座 生体構造解剖学分野

略歴

1997年 3月 横浜市立大学医学部卒業
1997年 4月 東京女子医科大学病院循環器内科 医師
2000年 4月 東京大学大学院医学系研究科 分子細胞生物学専攻 博士課程大学院入学
2001年10月 東京大学大学院医学系研究科 細胞生物学・解剖学講座 助手
2005年10月 博士(医学) 東京大学
2007年 4月 東京大学大学院医学系研究科 細胞生物学・解剖学講座 助教
2012年10月 東京大学大学院医学系研究科 細胞生物学・解剖学講座 特任講師
2014年 4月 理化学研究所 上級研究員
2017年 6月 神戸大学大学院医学研究科 生体構造解剖学分野 教授

演題「自己紹介と神戸大学における教育・研究の展開」

講演要旨：神戸大学に赴任して1年半が過ぎようとしています。私はこれまで関東地方での生活が長く、今回、初めて生活拠点を関西地方へ移しました。しかし、おかげさまで周りの方々に強力にサポートいただき、公私とも軌道に乗って参りました。私は、循環器内科医として医師の人生をスタートしましたが、心不全治療に対する内科的無力感から、基礎研究の道へと足を踏み入れました。そして、クライオ電子顕微鏡法・X線結晶構造解析法など分子の「かたち」を観る研究手法を学び、細胞骨格を中心とした構造研究を展開して参りましたが、ここ数年でようやく自分のやるべき研究が少しずつ見えて来た気がしています。また、前任地の東京大学時代から、解剖学教育はもちろんのこと、基礎研究医養成にも力を入れて取り組んでまいりました。神戸大学でも基礎医学研究医の養成プログラムの実行委員長として、徐々にではありますが、そのノウハウを取り入れ始めました。本講演では、自己紹介をさせていただきながら、これまでの私の教育・研究の概要をご紹介します。神戸大学でこれからのどのような研究を展開していくのか、また教育面では、基礎研究医養成コースに焦点をあて、どのような取り組みをしてどのような将来像を描いているのかを概説させていただきます。

■講演Ⅲ

塚 本 修 一 (つかもと しゅういち)



神戸大学 医学部 医学科 五回生

プロフィール

1996年1月、神戸市に生まれる。2014年兵庫県立長田高等学校卒業、神戸大学医学部医学科入学。2015年10月より基礎配属実習・医学研究コースで生化学・分子生物学講座 分子生物学分野(片岡徹教授)配属、学部の授業と並行して基礎研究の基礎を学ぶ。2018年4月、片岡教授の退官に伴い、病理学講座 病理学分野(横崎宏教授)に転属。以後食道扁平上皮癌細胞と腫瘍関連マクロファージの相互作用に関する研究に従事している。学科内の活動としては、同年より学修委員を拝命。学部学生の立場から、カリキュラム評価など教育改善の爲に尽力している。将来の志望は病理学。部活動は写真部所属で、これまで幾度か神緑会総会の写真撮影を担当してきた。

演題「「下から」の医学科改革を目指して」

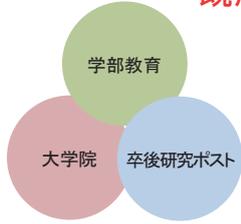
講演要旨：教育は「教える者」と「学ぶ者」の二者関係であって、その相互作用によって爲されるものである。両者ともに相手に働きかける努力を最大限に行うことで、その効果が発揮されるのだが、教育機関での話題になると、教育者側の試みや考えが強調される傾向にある。これまでの神緑会総会では、先生方の講演が数多く行われてきたが、今回は反対に教えられる側、即ち学部学生の取り組みを、学生の生の声でお届けしたい。

2023年度問題に関わるカリキュラム改変、全国的なMD研究者不足、医師の偏在問題…大きく変わろうとしている医学科教育に、教育を受ける側として働きかける演者から、学生の取り組みを紹介し、そして、将来医師、医学研究者になっていく学部学生にもっと興味を持っていただき、ご支援、ご鞭撻を賜りたいというのが、本講演の趣旨である。次頁の教育プログラムを参考にしてください。

神戸大学医学部医学科の教育プログラム

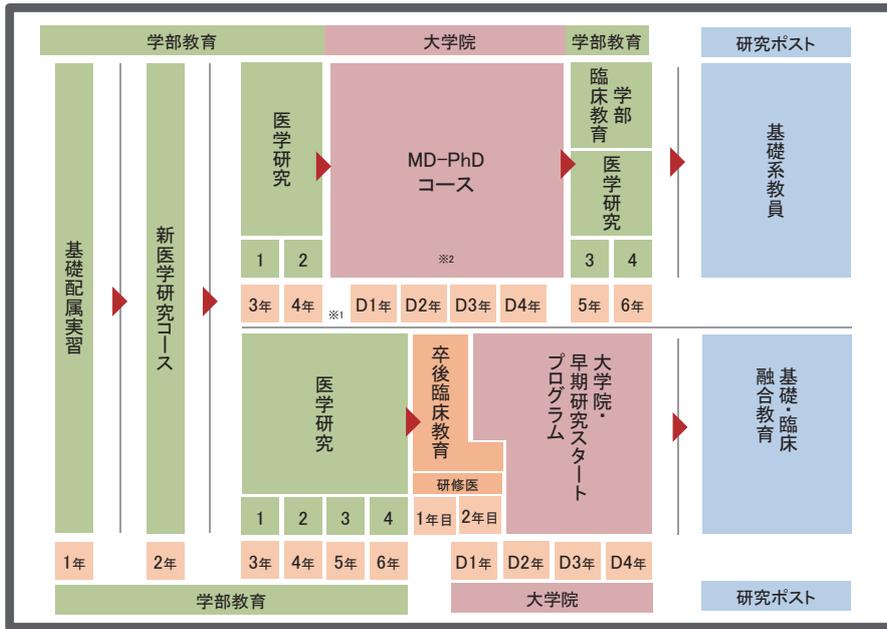
プログラムの流れ

既成概念を打ち破る三位一体改革



学部教育 × 大学院 × 卒後研究ポスト

- 学部教育に於けるシームレスな医学研究教育の実施
- 卒後2年間の臨床研修
- 大学院・早期研究スタートプログラムに於いて学位の取得
- 大学院卒業後、基礎臨床融合教員として基礎講座で研究、大学病院で臨床業務を行う。



※1 5年次での博士課程入学可
 ※2 医学部休学

■新医学研究コース

大学入学初期より基礎医学研究に触れ、早くから生命科学に親しむことを目的として開講されました。入学後1年間実施する選択科目で、空き時間を利用し、医学研究室を学生に開放し、研究室研修を行い、実際に研究（実験）やセミナーに参加し、研究成果を挙げる事を目的としています。

■基礎配属実習

基礎配属実習1は、2年次後期の最初の4週間（10月第1週目から4週間）を学生全員が履修します。その後、基礎配属実習2（プレコース）（選択科目）を希望する学生は、基礎配属実習1終了から2年次末まで継続して研究することが可能です。

■医学研究(1)(2)(3)(4)

基礎配属実習に引き続いて、長期にわたって研究を行うことを希望する学生を対象として、3年次、4年次、5年次、6年次にそれぞれ医学研究(1)、医学研究(2)、医学研究(3)、医学研究(4)の4科目を選択科目とします。この科目は、学生の希望に基づいて基礎系、臨床系を問わず各研究分野に配属し、高いレベルの医学研究に従事するものです。

■MD-PhD コース

4年次か5年次で医学部医学科を一旦休学して、飛び入学で大院博士課程へ進み、若い時期での学位取得を可

能にします。早期に研究を開始し、医学医療の急速な進歩や社会的要請に対応できる医学研究者を育成することを目的としたコースです。

■卒後臨床研修

医学部を卒業後、大学附属病院にて初期臨床研修を2年間行います。大学院・早期研究スタートプログラムにおいては、1年目は臨床研修を集中して受け、2年目は大学院で研究しながら臨床研修を受けます。

■大学院・早期研究スタートプログラム

学部教育・大学院教育・卒後臨床研修をスムーズに融合・接続し、医学研究への志向性が高い者に対して、学位取得と卒後研修の両立を可能にします。具体的には、学部卒業早期に大学院へ進学し研究を開始することで医学医療の急速な進歩や社会的要請に対応できる医学研究者を育成し、かつ、本研究科指導教員と附属病院総合臨床教育センターとの連携により、充実した初期臨床研修を行います。

■基礎臨床融合教員

大学院修了後に基礎分野での研究活動と臨床活動を合わせ行う学術推進研究員や基礎臨床融合特命助教として、基礎医学系分野で研究を続けるとともに本学附属病院で臨床活動を行います。

定年退職
にあたり

海外留学のすすめ

高槻病院 心臓・大血管センター 神戸大学名誉教授 大北 裕 (昭和53年卒)

最近の若い外科医は海外留学をしたがらない、という話をよく耳にする。この情報化社会では web 閲覧することで、一瞬にして世界の動向を知ることが出来るようになった。また、日本の医学の進歩は世界レベルに達し、昔の森鷗外らのように先進技術を謹んで学ぶ必要はなくなった、など、海外留学を忌避する理由が多い。しかしながら、小生はそのような意見には全く賛成できず、彼ら若人の内向き思考を惜しむ。その理由はまず、第一に、手術数である。心臓外科に関しては欧米と本邦では手術の経験数が一桁以上違う。手術技量が急速に伸びる、言わば手術の臨界期に多くの症例に曝露されるという経験は貴重である。第二に全く日本語の通じない環境で、異邦人として生活し、英語でのコミュニケーション能力を獲得するのはコスモポリタンとして生きていくために必須である。小生は海外での討論で、自分の思っていること、考えていることをうまく表現できず、悔しい思いをしたことが多々ある。人の評価は口で表現できたものによりのみ、なされ、誰も忖度などしてくれない。また、海外留学を通じて、沢山の友人を売ることができ、世界における日本が置かれた位置も自分のなかで確立できる。第三に欧米には、超一流と言われる外科医が数多く存在する。日本とは次元の違う一騎当千、伝説の外科医が居る。彼らの警咳に接し、同じ空気を

呼吸することで、自分の人生指針が大きく影響されよう。第四に、同じ手術成績でもそれに至るプロセスが彼我とでは随分違う。日本的集約作業、医師の過剰労働で同じような成績を出していても、太平洋戦争での零戦の栄光が長続きしなかったように、優れた包括医療システムのなかから生み出されるアウトカムにはそれなりの意義がある。第五に海外留学は、国内での仕事とは全く正反対に on-off が明確に決められ、職掌の区別も厳密で、徒に病院に留め置かれることはない。その結果、家族との濃密な時間が持てることは大きな利点である。

小生が神戸大学心臓血管外科に在籍した18.5年間に延べ35人の海外留学生を送りだした。その行く先は北米、欧州、東南アジアなどで、2018年現在10人が海外在籍中である。基礎研究に従事している人間は少なく、これまで10人に満たない。当初研究室に入って実験に勤しんでも、その後、当地のライセンスを取得して臨床医学に従事している外科医が大部分である。なかには、留学中、無益に毎日を過ごし何の成果を上げられもせずに帰国した輩も居るが、それ以外は概ねひとかどの優れた臨床医として現在も活躍中である。また、7人は予定通り帰国せず、彼の地に長期滞在し外科医としての地盤を確立し第一線で勝負している猛者も居る。

留学生を送りだす大学医局としては、外科志望者



の減少している昨今、残る医局構成員の、臨床、教育、研究面での負担が大きく増大し、正直しんどい。しかしながら、小生は10年、20年後の発展する医局の将来を見据えて、少々の犠牲を払ってでも

若い外科医が海外生活できるよう、懸命に努力してきた。今後も、先達に習って野心溢れる若き学徒が神戸大学心臓血管外科に参集することを願って止まない。



オーストラリアでの心臓胸部外科医への道

川 西 雄二郎 (平成8年卒)

私は2007年7月から現在まで約11年間、オーストラリア、シドニーの St Vincent's Hospital で心臓胸部外科・心肺移植外科医として働いております。今回、こちらに臨床留学する事になりました経緯をお話させていただきます。

私は以前から海外留学への憧れが強く、1999年に大北前教授が就任されてすぐに、アメリカに行きたいと訴えに教授室に押しかけていったことを覚

えています。今思うとその時はただ漠然と海外に行きたいと思っていただけで、具体的にやりたい事があった訳でもなく、Mayo Clinic のラボで研究していた先輩の後任（当然無給）の話があったから飛びついただけでした。当然大北先生を説得するだけの材料はありませんし、私の浅はかさな動機も見抜かれていたようで、軽くあしらわれてその話は終わりました。

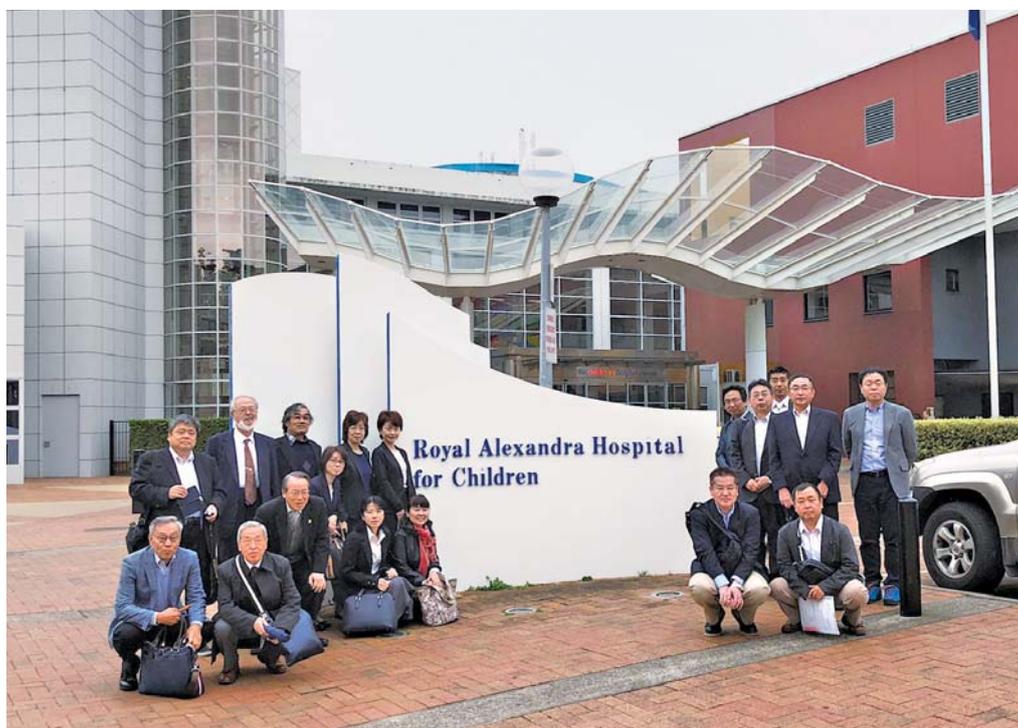
大北先生は常々、「若いうちに海外に出るべきだ」「日本人はすぐに無給で働くからいいように使われる、Professionalとして賃金はちゃんと貰うべきだ」「海外に行きたいなら実験でも臨床でも日本できっちり経験を積んでから、正式なポジションを勝ち取れ」「まず自分で探して、どうしてもポジションがなければ紹介してやる」というような事を言われておりました。今となれば至極当然だと思いますが、その当時はやはり不満に思いつつ、それでもまずは専門医と学位の取得に専念することにしました。

St Vincent's Hospitalには1999年頃に同門の岡田健二先生がOverseas Fellowとして働き始めたのをきっかけに、神戸大学の医局から継続して人を派遣するようになり、私の前にも何人かの先生が臨床留学されていました。ちょうど学位取得の時期と前任者の帰国のタイミングが合いましたので、後任として私が渡豪する事になりました。

オーストラリアでは米国と違って、USMLEのような試験を受けなくても英語試験さえ受ければ臨床医として働くことが出来ます（母国で専門医を取得している、最長3年などの条件はあります）。し

かし当時は英語の条件さえありませんでしたので、臨床留学したはいいいけれど、全く英語が聞き取れない、喋れない状態で、当然病棟業務などは出来ず、ただ毎日静脈採取と第二助手をするだけでした。それでも半年もすると第一助手をする機会が増え、そこで認められて執刀の機会を得ることも増えました。二年目には現地のRegistrarや他のOverseas fellowが比較的経験が浅かったため、Public病院（オーストラリアではPublic病院とPrivate病院があり、Privateでは執刀医は指名制なのでTraineeが執刀することはありません）での執刀をほぼやらせて貰えるようになり、さらに肺移植、心移植も執刀させて貰ううちに、もっと長くここでトレーニングを積みたいと思うようになりました。ちょうどボスからもポジションは用意するので試験を受けてオーストラリアに残ってみないか？というありがたいオファーを頂きました。

私自身そう思っていた矢先ですし、幸い家族の理解も得られましたので、当然オファーを受けようと思いましたが、やはり医局からの派遣で留学させて頂いた身分ですので、このまま留学先に居座ってしまうのは気が引けましたし、何より大北先生の許可



公私病院連盟のグループでオーストラリアの病院訪問時のこども病院前での写真です。前田がこの後、川西先生を訪問した。
後列左から2番目は、赤穂市民病院名誉院長、長く全国自治体病院協議会会長を務め、本年6月交替の邊見公雄氏。
同級生4名で参加。

が得られるのかどうか不安でした。意を決して大北先生にこのまま残りたい意思を伝えたところ、やはり「帰ってこい」と。「留学というのは留学先で学んだこと、経験したことを日本での診療、教育に役立ててこそ意味がある」と言われました。私自身もこの意見には全く異論はありませんので、何も言い返せませんでした。最終的には我が儘を押し通す形になりましたが許可を頂き、こちらのトレーニングプログラムに参加すべく、AMC (Australian Medical Council) 試験を受けました。この試験は米国の USMLE のようなものですが、オーストラリアで制限なく働くために海外医学部卒業者が受ける試験です。専門医取得後にその分野で3年働いた後、さらに残って働くにはこの試験を受ける必要があります。合格すれば(ほぼ)永住権が取得できます。そうすれば晴れてこちらの専門医のトレーニングプログラムに参加できますが、このプログラムへの参加が狭き門で、オーストラリア全土で6人程度しか合格できず、さらにプログラムの最終試験が難関で、非常に厳しい専門医プログラムです。幸い私はその後なんとか順調に経過し、現在に至っております。

最後になりますが、私が海外に留学したいと思っていた理由の一つに、日本では、特に大学病院では、外科医の数と手術症例数のバランスが悪いため、心臓外科のトレーニングは難しいと思っていた事があります。海外では心臓外科の施設はかなり少なく、1か所の病院で年間手術症例は1000例以上あるのが当たり前で、多いところでは4000-5000例という病院もあります。だからこそ心臓外科は海外に出ないとだめだと思っていました。しかしオーストラリアに来て外科医としての能力を認められ、メインで執刀を任せられるようになり、そこで初めて日本でも十分なトレーニングが出来ていたことに気がきました。もちろん今でも海外に出て多くの症例に係わる事は非常に重要だと思っていますが、まずは日本できちんとトレーニングを積むことが大切だと思います。日本は環境が悪いからと言って何も身につけずに海外に出て、何も得られずに帰って来ることになるでしょう。今の私がオーストラリアで心臓胸部外科医の道を歩んでいけているのは、大北先生をはじめ、日本でご指導いただいた先生方の下での修行があったからこそだと、感謝の念に堪えません。

ドイツ留学体験記

北播磨総合医療センター 心臓血管外科 高橋 宏明 (平成13年卒)

この度は神緑会会長の前田 盛先生より直接のご依頼を受け僭越ながらドイツ留学の経験をご紹介させていただく機会を得ましたので報告させていただきます。

神戸大学大学院医学系研究科心臓血管外科 前教授の大北 裕先生に推薦していただき、2009年から Karck 主任教授が主宰される Heidelberg 大学心臓外科に3年間、2012年から Schäfers 教授が主宰される Saarland 大学病院胸部心臓外科に3年間、計6年間ドイツに臨床留学させていただきました。今から10数年前の神戸大学大学院在学時に「自己組織化する人工血管の研究」をテーマに大阪大学心臓血管外科教授：澤 芳樹先生の御指導の下、実験研究の機会を得ました。その時の研究成果

を2008年アメリカ、サンディエゴで開催された The 88th Meeting of the American Association for Thoracic Surgery で発表し、その時の発表内容、論文を評価していただいたご縁で、ドイツ・ハイデルベルグ大学心臓外科に DAAD(ドイツ学術交流会奨学金)を取得して留学することができました。当時を振り返るとドイツ語能力や異国での生活に幾多の困難ばかりで大変つらい時期もありました。留学半年後ヨーロッパの学会で大北教授にお会いした際にはつらい状況に疲弊し日本に帰国したい旨をお伝えしました。しかし「戻ってくる場所はない」とハッキリ断られ、それが契機になり、「やるしかないやん」と気持ちが切り替わり積極的になれたと思います。同僚医師だけでなく看護師、臨床工学士などコメディカル

とのコミュニケーションを積極的にとり、定期手術だけでなく夜間、週末の緊急手術にもほぼ全例参加するようにしました。徐々に周囲の信頼を得て、予定外に DAAD 奨学金が打ち切られた時も Heidelberg 大学心臓外科 Karck 教授に相談したところ、Assistenz Arzt として大学病院から給料を支給される立場にしていただけました。2012年にはドイツ連邦共和国医師免許証を取得し周囲のドイツ人と変わらぬ立場で働く環境を得ました。医師免許を取得してから赴任した Saarland 大学病院では大動脈弁形成術で世界的権威である Schäfers 教授の御指導の下、数多くの手術に参加し年4回開催される大動脈弁形成術のライブ手術時にも常に助手を務めさせていただきました。ドイツの片田舎にある病院にも関わらず、このライブ手術には日本からも数多くの大学教授クラスの先生方が参加されていました。また執刀の機会も与えていただき非常に充実した日々を送ることができました。

また Heidelberg 大学や Saarland 大学での臨床研究をヨーロッパ胸部心臓血管外科学会で発表させていただいたり、ドイツ心臓血管外科学会でドイツ語で発表させていただいたり貴重な機会を得ました。帰国後はドイツ留学時の経験をもとに大動脈弁形成や大動脈基部置換術など留学当初には想像できなかった手術を施行する機会を得ています。しかしながら今振り返ると、留学したメリットは外科手技的なことよりも精神面での鍛錬であったと思います。留学時に経験した途方もない挫折感を考えると目の前に今降りかかる困難はそれほどではないと思える自分がいます。昨今の若手医師の外科離れが危惧されておりますが、心臓外科は其中でも特に人員不足です。そのような大変な状況の中でドイツでの6年間にわたる留学という貴重な機会を与えてくださった大北 裕 前教授、神戸大学心臓血管外科医局の諸先輩方、同門会会員の方々、神緑会の会員の皆様には深謝申し上げます。



岡山で開催された第58回関西胸部外科学会後の夕食会。
左から浅野満先生（聖隷三方原病院）、大北裕教授、Schäfers 教授、國原孝先生（心臓血管研究所病院）そして筆者（右）。



第71回 日本胸部外科学会定期学術集会（2018年10月5日、東京）後の夕食会での写真前列 左から筆者、國原孝教授（東京慈恵医科大学心臓外科教授）、Schäfers 教授（Saarland 大学胸部心臓血管外科主任教授）

加藤籐信君（昭和27年卒）を偲んで

吉 田 著（昭和27年卒）

親しみを込めて文中敬称を省略させていただきます。

平成29年の春、例年のように大学のクラス会が神戸市内で開かれた。私は両膝の変形性関節症のため10年ほど参加していなかったの、久しぶりであった。十数名の出席者は前後二列に並び私は中央に座った。私の目の前に顔の真っ黒な男がいた。私は彼が誰だか判らない。私も90歳となり健忘症には毎日悩まされていた。それでも懸命に記憶を呼び起こそうとしたが思い出せない。そこで「君は誰だったかな？」と聞いたが彼はニコリともせず返事しない。仕方なく暫く周囲と談笑していた。少し時間をおいてもう一度ゆっくりと大きな声で「君はだれだったかなあ〜？」と聞いたがやはり返事しない。これはきっと自分の顔を忘れられて、気を悪くしたのかもと思い、また周りと話し合っていた。20分くらい過ぎてから、もう一度今度は優しく丁寧に「君はだれだったかなあ〜？」と聞いたがやはり返事しない。これでは仕方が無いとあきらめて、しばらくまた他の人達と話し合っていると、誰かがその黒い男に向かって「トウシン！トウシン！」と叫んだ。私は「あっ！加藤か!？」と、すぐ思い出した。紛れもなく加藤籐信に違いなかった。彼は学生時代から饒舌の方ではなかったが、高齢になり一層しゃべらなくなったのかも、と思った。彼は私と大学第二内科同門である。

他の級友よりは接触がはるかに多かった筈である。その上彼とはよくテニスをやった。私は庭球部員であったが彼は部員ではなかったが至ってテニスが好きで、校庭で毎日のようにラケットを振っていた。その頃の大学にはまともなテニスコートもなく校庭の固い石畳の上でイレギュラーなバウンドのボールを追った仲であり、病理学の岡本耕三教授もこの石畳テニスの仲間であった。

話は変わるが遙か数十年の昔、篠山の予科時代、寮の全体に安里屋ユンタの歌が流行したことがあった。

「サー安里屋ぬクヤマによ

サーユイユイ

あん美らさ生りばしよ

マタハーリヌチンダラカヌシャマヨ」

の歌は大らかで、のんびりしており、歌うと気持ちが安らぎ私も大好きであった。その民謡は奄美の歌であるが、加藤は奄美の出身であり、確証はないが私はその流行の元は加藤だと今でも信じている。

月日の流れは恐ろしいほど早い。私も90歳を超えたが先日大阪方面の同窓会関係の冊子に加藤の住所が大阪阿倍野の北畠との記載があった。北畠は私の実家の近くである。それでは一度連絡して是非会いたいと思っていた矢先、訃報を知った。全く残念の一語につきる。今はただご冥福を祈るばかりである。

昭和58年卒同窓会便り

矢 谷 暁 人（昭和58年卒）

私達昭和58年卒は今年卒後35年、クラス全員が還暦を超えるという節目の年を迎えることになりました。同窓会はこの所5年毎の周期で開催されており、本年は開催予定の年に当たっていますが、少し準備が遅れているようで、現時点（6月1日）で具体的な日時は決まっておりません。

しかしこの間を繋ぐように毎年1回、「播磨臨床セミナー」という同級生の演者による講演を同級生だけで聴く勉強会が増田章吾先生を中心に開催されており、実質的な同窓会の役割を果たしています。通算28回目となる本会は本年は4月14日土曜日午後6時にポートピアホテルで開催され、例年通

りの30人程が集まりました。

今年の講師は前年、兵庫県立リハビリテーション中央病院の院長に就任した橋本靖先生。「ロコモティブシンドロームと腰痛」という題目でお話しいただきました。専門外の間人が多い当会の特性を考えられ、非常に平易な表現で解説頂きました。同窓生だけなので内輪の話もチラホラ、終始和やかな雰囲気の間でしたが何時も質疑応答は白熱するのがこの会の特徴です。

講演終了後はお待ちかねの懇親会。あちらこちらで歓談の輪ができ、楽しい情報交換となりました。年齢柄病院の院長や施設長その他責任ある立

場に就任している人が多く、ここ数年は演者探しには困らないと思われます。

更に十数名程が二次会で2Fのバーになだれ込みます。宴も一段落、お開きになる寸前、奥のテーブルに集う初老（？失礼）の賑やかな集団が我々の横を歩いて一足先にお帰りに。よく見ると同じ区医師会でお世話になっているM先生やS先生のお姿が！聞けば今日が卒後50年の同窓会でその二次会だったとか。そう、この集団は神緑会昭和43年卒の先輩達の集団だったのでした。我々も後15年経ってもあれぐらい元気でいたいものだと皆で健康を祈念しつつお開きになりました。



学術誌第34巻内容の誤りについて

1. 学術誌第34巻 (Memorial 90頁)

在りし日の窪田 彬名誉教授の卒業年について

一般に卒業年を記入するだけですが、(兵庫医大、昭和38年卒)となっていました。著者及び編集委員会による校正を行っていますが、気づかずに兵庫医大を残してしまいました。卒業大学と職場の兵庫医大もしくは同名誉教授等も重なり、ご遺族に不快な念をいだかせたと思案しています。

兵庫県立医科大学が兵庫県立神戸医科大学と名称変更され、その由来を聞く機会がありませんでしたが、このような混乱も考えての措置からと感心しております。ご迷惑をおかけし、おわび申し上げます。

2. 新入生の出身高校の誤りについて (学術誌第34巻35頁)、研修病院記載の誤り (学術誌第34巻37頁)

発行直後に京都在住の昭和55年卒の栗山隆信先生よりご指摘がありました。第二位の洛北高等学校の7名が誤りではないかとのことで、神戸大学に確認すると洛南高校6名、洛北高校1名の誤りでした。例年に比し、大きな変動であることは認識していましたが、神戸大学よりいただいた資料でこれまでは誤りのなかったことにより、そのまま掲載しました。「研修医の研修先一覧」では、この数年、ご指摘をいただいていることですが、加古川中央市民病院の表示が37頁18段上の加古川西市民病院との連続性なく注意書きもありませんでした。大学のまとめをそのまま使用した限界でおわび申し上げます。次年度には解決する問題ですが、三木市民病院欄が残っている点等、大学とも連携し、整理します。

神緑会ホームページ、リンク登録について



URL : <https://www.shinryokukai.com/>

神緑会の本来の役割

改めて考えると「神緑会は何の役に立つ、個々人には役に立たない」への明瞭な答えはない。あると考えて取り組んだ「神緑会員の運営する病院、診療所」の応募件数は本当に少ない。神戸大学関係病院は全病院がリンクされており、それぞれは公的病院も多く、充実している。同様に神緑会員の運営する医療機関の周知を図る活動は、各施設が努力するのは当然として神緑会の重要な役割と考えます。最近、神戸大学病院の医療連携担当者から情報提供を要望され、「大変役立った」と感謝されました。

神緑会員名簿から機械的にリスト作成も考えられますが、皆様の関心を喚起するものです。

経過

リンクへの努力は、平成29年1月総会で登録表を配布し、その後、昭和45年～55年卒業の先生方に個別にご案内し、了解の得られた方々の病院、診療所をリンク登録しました。最近半年間は少し活動が停滞しましたが、皆様のご意見を参考に活動したいと思います。

■神緑会ホームページでの神緑会員の運営している病院・診療所

神戸大学病院の関連病院

+ 神戸市 (40)
+ 尼崎・西宮・丹有 (6)
+ 明石市・東播 (10)
+ 加古川・高砂 (7)
+ 姫路 (15)
+ 但馬・淡路 (6)
+ 大阪・京滋(8)

()内の数字は登録数

大学関連リンク集 URL :
<https://www.shinryokukai.com/link>

<h4 style="text-align: center;">神緑会会員の病院</h4> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">+ 神戸市 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 尼崎・西宮・丹有 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 明石 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 大阪・京滋 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 奈良 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 四国 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 山陰 (1)</td></tr> </table>	+ 神戸市 (1)	+ 尼崎・西宮・丹有 (1)	+ 明石 (1)	+ 大阪・京滋 (1)	+ 奈良 (1)	+ 四国 (1)	+ 山陰 (1)	<h4 style="text-align: center;">神緑会会員の診療所</h4> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">+ 神戸市 (19)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 尼崎・西宮・宝塚・丹有 (5)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 明石市・東播 (3)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 加古川・高砂 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 姫路 (1)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">+ 大阪・京滋 (4)</td></tr> </table>	+ 神戸市 (19)	+ 尼崎・西宮・宝塚・丹有 (5)	+ 明石市・東播 (3)	+ 加古川・高砂 (1)	+ 姫路 (1)	+ 大阪・京滋 (4)
+ 神戸市 (1)														
+ 尼崎・西宮・丹有 (1)														
+ 明石 (1)														
+ 大阪・京滋 (1)														
+ 奈良 (1)														
+ 四国 (1)														
+ 山陰 (1)														
+ 神戸市 (19)														
+ 尼崎・西宮・宝塚・丹有 (5)														
+ 明石市・東播 (3)														
+ 加古川・高砂 (1)														
+ 姫路 (1)														
+ 大阪・京滋 (4)														

()内の数字は登録数

神緑会員の運営している病院・診療所 URL :
<https://www.shinryokukai.com/link/medical>

神緑会会員の病院	
<input type="button" value="神戸市 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 新長田眼科病院 ▶ ホームページへ 	〒653-0036 神戸市長田区鏡塚町4-1-13 TEL:078-631-1010
<input type="button" value="尼崎・西宮・丹有 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 医療法人協和会 協和マリナホスpital ▶ ホームページへ 	〒662-0934 西宮市西宮浜4-15-1 TEL:0798-32-1112 入院：緩和ケア病棟、回復期リハビリ病棟 外来：内科・外科・整形外科・小児科
<input type="button" value="明石 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 医療法人社団吉徳会 あさざり病院 ▶ ホームページへ 	〒673-0852 兵庫県明石市朝霧台1120-2 TEL:078-912-7575 産婦人科・眼科・内科・検診科
<input type="button" value="大阪・京浜 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会医療法人 愛仁会 ▶ ホームページへ 	〒531-0072 大阪市北区豊崎3丁目2番1号 淀川5番館4階 TEL:06-6375-0660
<input type="button" value="奈良 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 医療法人社団生和会 登美ヶ丘リハビリテーション病院 ▶ ホームページへ 	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘6-12-2 TEL:0742-45-6800 FAX:0742-45-6801 リハビリテーション科
<input type="button" value="西園 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会医療法人近森会 近森病院 ▶ ホームページへ 	〒780-8522 高知市大川筋1丁目1-16 TEL:088-822-5231 内科、循環器内科
<input type="button" value="山陽 (1)"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 六山リハビリテーション病院 ▶ ホームページへ 	〒689-4102 鳥取県西伯郡伯耆町大原927-1 TEL:0859-68-4111

日付： 年 月 日

一般社団法人 神緑会 御中

神緑会ホームページへの（リンク）登録票

卒年	氏名
病院名・医院名	
病院(医院)住所	
病院(医院) TEL	
登録 URL	※この欄は貴医院ホームページのアドレスをご記入ください。無き場合は空白でご返送ください。
メールアドレス	(ホームページへは掲載しません。事務局との連絡用)
診療科(複数可)、 備考等	(特徴とする診療内容など。長くても結構です。)

※FAXまたは必要項目を入力の上
メールにてご送付ください。

一般社団法人 神緑会 会長 前田 盛
 (事務担当 高倉 善子)
 〒650-0017
 神戸市中央区楠町7丁目5-1
 神戸大学医学部内
 TEL (078) 361-0616 FAX (078) 361-0617
 E-mail : sinryoku@med.kobe-u.ac.jp
 URL : https://www.shinryokukai.com/

「武田 廣学長を囲む懇談会」 ご出席のお礼

武田 廣学長を囲む会

拝啓 清秋の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成30年9月15日、神大会館六甲ホールと神戸大学理学部キャンパス内Z棟において開催いたしました「武田 廣学長を囲む懇談会」には、ご多忙中にもかかわらずご出席をいただき誠にありがとうございました。

当日は、神戸大学、学友会ならびに各同窓会から、81名の方々のご出席をいただきました。また、六甲ホールでの学長の熱のこもった講演と、満席状態の懇親会場にて、学長と神戸大学卒業生との終始なごやかな懇談が繰り広げられました。これもひとえに皆様方のご協力の賜物と深く感謝いたします。

武田 廣学長は、懇談会に先立つ講演会におきまして、「国立大学法人化から15年」と題して、大学を取り巻く厳しい財政状況など、国立大学法人が置かれた立場についてお話しされた後、神戸大学の取り組みについて紹介されました。学長が推進してこられた文理融合研究の成果として神戸大学発



学長と7名の同窓会長

ンチャー企業3社が設立されたことなど、学外からも高く評価される取り組みが実現しているとの報告がなされました。

皆様方におかれましては、今後とも神戸大学の発展のために、引き続きお力添えをいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

時節柄ご健康にご留意されまして、また次の機会にお目にかかれることを期待申し上げます。

敬具



100年記念館テラスでの出席者記念写真

第13回神戸大学ホームカミングデー

学部企画 医学部医学科 (医学部会館3階シスメックスホール入口)

- ◆開会の挨拶 (医学部長) 14:00~14:10 (シスメックスホール)
- ◆神緑会会長挨拶 14:10~14:20 (シスメックスホール)
- ◆第5回神緑会 YIA 受賞講演 14:20~14:35 (シスメックスホール)
第5回最優秀賞受賞者 西本 祐希
- ◆特別講演Ⅰ 14:35~15:05 (シスメックスホール)
「臨床研究に見る大学の責務と国民利益 - 臨床研究法の施行を受けて -」
臨床研究推進センター長・特命教授 永井 洋士
- ◆特別講演Ⅱ 15:05~15:35 (シスメックスホール)
「出会いは扉を開く - 私の糖尿病研究」
特命教授 清野 進
- ◆閉会の挨拶 (医学科長) 15:35~15:45
(シスメックスホール)
- ◆記念撮影 15:45~15:55 (シスメックスホール)
- ◆第6回神緑会ヤングインベスティゲーター
アワード (YIA) 発表会 16:05~17:00 (神緑会館)
- ◆懇親会 17:00~18:30 (神緑会館多目的ホール)
医学部長挨拶、神緑会会長挨拶、神緑会混声合唱団、
神緑会 YIA 表彰式
《同窓会神緑会企画》
- ◆神緑会展示 16:05~19:00 (神緑会館)
 - ・歴史展示(6) 県立医大・神戸大学医学部
 - ・美術展示(2)



懇親会での混声合唱団



特別1 永井教授

特別2 清野教授

YIA 西本先生
本年最優秀賞

第6回神緑会ヤングインベスティゲーターアワード発表会

発表演題と表彰者リスト

最優秀賞

吉田 尚史	大学院院生	循環器内科	Bacteroides は腸内細菌のリポ多糖産生を低下させる事で動脈硬化を抑制する
重岡 学	助教	病理学	食道扁平上皮癌微小環境における Cyr61の重要性



YIA 受賞者（最優秀賞2名・優秀賞9名）集合写真

優秀賞

Hilman Zulkifli Amin	大学院生	循環器科 Cardiovascular Medicine	Overexpression of cytotoxic T-lymphocyte-associated antigen-4 protects against abdominal aortic aneurysm formation in mice
鄧 琳	助教	感染制御学	B型肝炎ウイルス Xタンパク質の新規結合因子 Prdx1とエキソソーム構成因子 Exosc5による HBV RNA 分解とHBV 増殖制御
平田 悠	大学院生	糖尿病内分泌内科学	高血糖は WWP1/KLF15経路を介して筋萎縮を促進する
川上 洋平	医員	整形外科	SDF-1/CXCR4 Axis in Tie2-lineage Cells Including Endothelial Progenitor Cells Regulates Bone Fracture Healing
原田 俊介	学部学生	学部6年生(神経分化・再生)	遺伝性神経芽腫に同定された変異 Phox2b の機能解析
後藤 秀彰	医員	腫瘍血液内科	Adipose-derived stem cells enhance human breast cancer growth and cancer stem cell-like properties through adipsin
小嶋 康隆	大学院生	耳鼻咽喉科頭頸部外科	アデノウイルスを介した HPV16 E6/E7アンチセンス RNA 導入とシスプラチン併用療法は HPV16陽性頭頸部癌細胞の腫瘍増殖を抑制しアポトーシスを誘導する
今崎 剛	特命助教	Structural Medicine and Anatomy 生体構造解剖学	Cryo-EM analysis revealed how microtubule-associated protein 4 (MAP4) controls microtubule stability and kinesin motility
西村 太一	大学院生	麻酔科学	樹状細胞による実験的自己免疫性脳脊髄炎の発症制御における CD47 - SIRP α 系の役割

第2回神緑会美術展

- 1、開催日：2018年10月27日（土）
 ※展示期間：10月27日（土）
 （ホームカミングデイ：16:00～19:00）
 ～11月1日（木）16:00まで展示
- 2、開催場所：附属病院内所定廊下（下地図参照）



正面玄関



第2回神緑会美術展をおえて

藤谷哲造（昭和37年卒）

10月26日から31日まで第2回神緑会美術展が開催されました。昨年より多い会員からの出品があることを期待し、また神緑会会員以外の方にもご覧いただきたいと思い、前田会長にお願いして、附属病院1階の外来受付から第2病棟に行く廊下に作品吊り下げ用のワイヤー（ピクチャーレール）を新しく設置していただきました。

出品いただいた会員数は昨年と同じ6名でしたが、壁面はかなり余裕があるため、一人複数の出品をお願いしたところ、13点の力作が集まりました。

昭和26年卒の玉垣龍先生の作品「鶴林寺」は境内の奥行きが感じられ、素晴らしさに大感激させられました。川田哲己先生（S54卒）の水墨画「金閣寺」「銀閣寺」、はそれぞれ20号の和紙に描かれ、作品は緻密で、作成に相当な根気が必要ではなかったかと想像されました。*大石勝之先生（S36卒）の肖像画「ドクターヒロコ」3点は、いずれも力強いタッチで描かれており、奥様に対する愛情があふれています。吉岡正子先生（S47卒）の作品は旅行中にスケッチされた風景でしょう。昨年につづき、脳

裏に焼き付いた現地の躍動感のある様子を思うままに描かれており、さぞ楽しい旅であったろうと想像させられます。宮地千尋先生（S54卒）は3点、何れも大胆な構図と洗練された絵具、筆使いはさすがです。「鮎のぼる川」は足元の静かな水面と後方の勢いよく流れる川をのぼる鮎が見えるようです。私の「メテオラ」はギリシャの北部の町で、そそり立つ巨大な岩山が有名です。朝早く起き、圧倒されながらスケッチしたものです。

今回、廊下で受付をしておりました時、通りがかりの患者さん、お見舞の方などから、1週間だけの展示ではもったいない、もう少し永く展示されたいという声を聴きました。今回展示した廊下の上の2階にも同じような作品を吊り下げるレールを作っています。ぜひ次回はもっと多くの会員が出品していただけますことを期待しております。
※②③の画像はぼんやりしていますが、本当は精緻なものです。川田先生、すみません。



【出展者】

- 玉垣 龍（昭和26年卒）：①「鶴林寺」
 大石 勝之（昭和36年卒）：④「ドクターヒロコⅠ」⑤「ドクターヒロコⅡ」
 ⑥「ドクターヒロコⅢ」
 藤谷 哲造（昭和37年卒）：⑬「メテオラ」⑫「鞆の浦」
 吉岡 正子（昭和47年卒）：⑧「西表のカヌー」⑦「馬小屋」
 川田 哲己（昭和54年卒）：③「金閣寺」②「銀閣寺」
 （暁哲）
 宮地 千尋（昭和54年卒）：⑪「夕映え」⑩「鮎のぼる瀬」⑨「秋香る」

清野進特命教授が日本学士院賞受賞

受賞対象研究「インスリン分泌を制御するシグナル伝達の分子機構に関する研究」

神戸大学大学院医学研究科の清野進特命教授が、平成30年度の日本学士院賞を受賞されました。

【受賞理由（日本学士院 web サイトより）】

清野 進氏は血糖調節の根幹となるホルモンであるインスリンが膵臓のβ細胞から分泌されるメカニズムを分子レベルで解明しました。1921年にカナダのバンティングとベストによるインスリンの発見はそれまで不治とされていた糖尿病患者への福音となりましたが、1990年代までインスリンがどのような仕組みで分泌されるかは依然不明でした。清野氏は分子生物学的手法を用いてインスリン分泌の分子メカニズムを次々と解明しました。血中グルコースが変化した場合のシグナル伝達機構の解明は、インスリン分泌の基本的な分子メカニズムを解明する大きな業績です。清野氏はさらに、血糖降下薬であるスルホニル尿素（SU）薬や近年画期的な糖尿病治療薬として開発されたインクレチン関連薬によるインスリン分泌のメカニズムを

明らかにしました。これらの成果は一部の低血糖症や糖尿病の成因の解明ならびに新しい治療法の確立へと発展し、臨床的な意義も大きく、国際的に高い評価を受けています。

【本人の受賞コメント】

今回の日本学士院賞受賞を大変うれしく、光栄に存じます。これまで、素晴らしい恩師、スタッフ、ポスドク、学生、共同研究者との出会いによって私の研究は発展してきました。これらの人々に心から感謝申し上げます。さらに、私どもの研究室を長年支えてくださった神戸大学の教職員の皆様にもお礼を申し上げます。今後も、できる限り、糖尿病研究の発展と次世代を担う研究者の育成に貢献できるよう精一杯努力を重ねたいと思っております。

一、閉 会	一、ご 挨拶	祝 辞	乾 杯	祝 辞	一、授 賞祝 賀会	一、記 念講 演会	一、学 長挨 拶	一、開 会	式 次 第
神戸大学大学院医学研究科特命教授	神戸大学大学院医学研究科特命准教授	MSD株式会社 執行役員 フライマリーケアビジネスユニット統括 ノボルディスク ファーマ株式会社 代表取締役社長	神戸大学大学院保健学研究科長	神戸大学医学部附属病院長	神戸大学大学院医学研究科特命教授	神戸大学大学院医学研究科長	神戸大学長	神戸大学大学院医学研究科長	
清野 進	横井 伯英	クリス・リージェント	前田 盛	木戸 良明	平田 健一	清野 進	武田 廣	的 崎 尚	

清野進特命教授 略歴

1974年3月 神戸大学医学部卒業
 1974年7月 神戸大学医学部附属病院内科研修医
 1975年7月 兵庫県立尼崎病院内科医員
 1976年4月 田附興風会北野病院内科医員
 1978年7月 京都大学医学部附属病院第2内科医員
 1982年3月 医学博士（京都大学）
 1982年7月 米国ミシガンが医学部 Postdoctoral Scholar
 1985年1月 米国ミシガン大学医学部 Senior Research Fellow
 1985年7月 米国シカゴ大学生化学・分子生物学部 Research Associate Fellow
 1986年8月 ハワードヒューズ医学研究所 Associate
 1988年10月 米国シカゴ大学医学部 Assistant Professor
 1991年4月 米国シカゴ大学医学部 Assistant Professor (tenured)
 1991年9月 千葉大学医学部教授
 2002年7月 京都大学大学院医学研究科教授（客員・併任）（2007年7月まで）
 2003年4月 神戸大学大学院医学系研究科教授
 2006年4月 神戸大学評議員（2009年3月まで）
 2013年4月 神戸大学名誉教授
 2013年4月 神戸大学大学院医学研究科特命教授（現在に至る）

主な受賞歴

1992年 米国北部イリノイ州糖尿病学会 New Investigator Award
 1974年 英国内分泌学会 Asia & Oceania Medal（現 International Medical）
 2001年 日本糖尿病学会 ハーゲドーン賞
 2004年 持田記念医学薬学振興財団 持田記念学術賞
 2005年 内藤記念科学振興財団 内藤記念科学振興賞
 2010年 米国シカゴ大学 The Donald F. Steiner Award for Outstanding Achievement in Diabetes Research
 2010年 欧州糖尿病学会 Albert Renold Prize for Outstanding Achievements in Research on the Islets of Langerhans
 2011年 紫綬褒章
 2013年 ベルツ賞1等賞
 2017年 鈴木万平糖尿病財団 Manpei Suzuki Internatinal Prize for Diabetes Research
 2018年 米国シティオブホープ財団 Arthur Riggs Award
 2018年6月25日 日本学士院賞



神戸大学深江グラウンド芝生化事業

神戸大学医学部ラグビー部OB会 会長 常 深 隼太郎 (昭和42年卒)



神戸大学深江グラウンド
芝生化工事完成式典・祝賀会

神戸大学学長への全学ラグビー部会長よりの贈呈

神戸大学深江キャンパスグラウンド芝生化完成及び全学ラグビー部創部95周年記念、誠におめでとうございます。95年の長きにわたっての念願の芝生のグラウンドの完成であり、それが節目の年に完成するという喜ばしくおめでたいことです。私たち医学部ラグビー部にとっても諸手を挙げて万歳をしたい気分であります。

医学部ラグビー部は私の現役の時から、大学基礎学舎の狭い中庭や附属病院近くの約40m 四方の児童公園（今は神戸市文化ホールの一部になっています）をはじめ、あちらこちらの広場やグラウンド

が練習の場でした。その確保にはずいぶん苦労した記憶があります。そんな状態がいまなお続いていて、2016年には海事科学部のグラウンドを58回もお借りしています。その年の春の関西医歯薬大会も医学部ラグビー部が主管で、日程を工面していただきました。

このような状況の中で、2017年5月のグラウンド芝生化の提案でした。以前からくすぶり続けていたグラウンドの確保と芝生化が提案されたのです。その呼びかけは私にとっては非常にありがたいことでした。「念願の芝生のグラウンドの実現だ」と急速に夢が膨らみはじめ、そして現実味を帯びていきました。

平成30年4月15日には芝生化工事の安全と芝生グラウンド使用時の安全そして供用後の芝生の繁栄祈願して、起工式を行う運びとなりました。そして施工業者の阪神園芸株式会社と工事運営に関しての協議を経て、5月26日（土）学生・OBら総勢200名超えで芝生植え付け作業を行い、29日の第1期工事分完了後は施工業者の養生育成管理を経て、今日に至っています。

ホームグラウンドの完成です。私たちOBはサポートをどのような形で行っていくのか、課題は多いと思いますが、何かの行動を始めませんか。OB



終了後のあいさつ



試合風景

会をしっかりしたものにする必要があります。ラグビー、タッチフット、ラクロスなどの練習や試合の見学で現役を応援するのもいいでしょうし、たまには自らグラウンドを歩いて芝生の感触を楽しむのも一つでしょう。まずは深江キャンパスグラウンドに出かけてみましょう。

いづれにしてもこの心躍る大きな事業に参加させていただき、私のラグビー人生意義あったものと感謝で一杯です。このプロジェクトに関わられた多くの同志のスクラムのおかげです。本当にありがとうございました。そして、グラウンドでお会いしましょう。

最後に、神戸大学ラグビー部OB会、神戸大学本部、海事科学部、旧神戸商船大学ラグビー部OB、兵庫県都市政策課の県民まちなみ緑化事業の担当者そして阪神園芸株式会社など関係者の皆様の熱意と努力に敬意と感謝を表します。ではグラウンドで。

注. 目的を明確化したプロジェクト型寄付が成功すると大学基金課の評価です。



神戸大学ラグビー部、医学部ラグビー部 OB 戦後の写真

神戸新聞創刊120周年記念事業

シンポジウム「神戸から拓く iPS 細胞の未来」

2018年9月25日（火）、神戸市内にて、神戸新聞創刊120周年記念神戸新聞情報文化懇話会特別講演会およびCiRA 定期シンポジウムとして開催されました。

神戸新聞の配慮により、神戸大学、甲南大学、関西学院大学の学生に50名が招待されました。神戸大学から感想文を寄せてくれた赤井君を含む16名の学生が参加しました。



山中伸弥 教授

■神戸新聞社
高士薫 代表取締役社長
開会挨拶



高士薫 社長

■山中伸弥 所長・教授（京都大学 iPS 細胞研究所）
「iPS 細胞が拓く新しい医学」

■万代道子 副プロジェクトリーダー（理化学研究所）
「iPS 細胞を用いた網膜疾患の治療開発」



万代道子 副プロジェクトリーダー

■池谷真 准教授（京都大学 iPS 細胞研究所）
「iPS 細胞を用いた進行性骨化性線維異形成症の創薬研究」



池谷真 准教授

パネルディスカッション



※写真：神戸新聞社提供

山中先生のご講演についての感想

赤井陽至(1年生)

山中先生がこれまで歩いてこられた人生を知ることができてよかった。私自身研究の道へ進むつもりはあまり無いが、それでも将来のロールモデルとしてはとても参考になった。また先生の研究についての説明も分かりやすく、簡潔に説明していただけたので1年生でも理解しやすかったように思う。また1年生は医学を勉強し始める前であり、ES細胞との共通点や相違点、

iPS細胞の特徴など今まで曖昧だったことがよりクリアに理解できた。また実際に顕微鏡を使って、iPS細胞を見ることが出来たのはとても良い経験だと感じたし、iPS細胞に対する興味が高まった。まだ将来のキャリアプランは明確ではないが、今回の講演を聞いてこれから考えていく上での参考になると確信している。またこのような機会があれば参加したいと思う。

iPS細胞研究基金では、難病やケガに苦しむ患者さんに一日でも早くiPS細胞技術を届けられるよう、研究所を安定的に運営するためのご寄付を募っています。今後ともiPS細胞研究にご理解を賜われますようお願い申し上げます。



【iPS細胞研究基金についてのお問い合わせ先】

iPS細胞研究所 iPS細胞研究基金事務局
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
TEL: 075-366-7152 FAX: 075-366-7185
メール: ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp
資料請求専用フリーダイヤル:

0120-80-8748 (平日8時半~17時)

ハシレ ヤマナカ シンヤ

京都大学基金ウェブサイト

「京都大学基金」で検索してください。
URLは以下の通りです。

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

神戸大学医学部創立75周年・神戸病院創立150周年 記念事業の寄付呼びかけ

上 辻 浩 夫 (昭和42年卒)

大きな自然災害が続き、多くのボランティアが、被災地や被災者の支援のために活動を始め現場へ入れない者は、寄付を通じて支援活動に参加する。

毎年このような事が繰り返されております。地区医師会でも被災地の被災医療機関を支援するための募金活動を行います。大半の会員には快く応じて頂いております。このように相手の状況がよく理解でき、用途のあきらかな場合には、寄付は多く集まりますが、一方で戦後社会福祉事業の一環として始まった、協同募金などは、相手の状況が見えず、用途も不明のため近年は、衰退の一途をたどっております。

前田 盛会長から本稿の依頼を受けた際、事業の全体像を理解できておりませんでしたので心底ためらいました。僅かばかりの協賛は、させて頂いておりましたが、記念事業募金趣意書などに詳しく目を通したこともありませんでした。本会のホームページを見て趣意書の主旨を、「基礎と臨床が一体となって創薬や、大学発の医療を創設するための新たな研究開発を行う場所を設置する」ことであると解釈してしまいました。思い込んでしまったのです。先生方に寄付を募るに際し、何なりの、根拠、事情、背景などをご理解いただく必要を感じたところです。身近な同級の松尾 理先生（昭和42年卒・近畿大学名誉教授・生理学）にこのことについて相談したところ、さっそく現在基礎医学が抱える問題点などについてのメールをいただきました。以下にその内容を引用します。

【第2の山中伸弥先生を輩出しよう】

日本の大学での研究遂行が年々難しくなっている。大学の運営交付金が毎年減額され続けているため、大学は教職員を毎年減らし続けている。講座を廃した大学があるほどである。このような厳しい研究環境が若い人に魅力的に映るはずがない。事実、卒業生が基礎系の研究者の道へ進路を取

ることがほとんどなくなっているのである。

国は特定の大学に集中的に予算を投入して、一点豪華主義的に優遇しているが、問題は研究テーマとか研究の流れが時代と乖離したり、他国に圧倒的に話されたりしてくると、予算が無駄になり、多くの一般的なテーマに対応してる研究者が職を失われたりするるのである。

卒業生として、後輩を育てていき、第2の山中伸弥教授を輩出することが出来れば、望外の幸せであろう。研究と言うのは、研究に取り組みば、全てのテーマで花が咲くと言うものでなく、時に花が咲くテーマもあれば、空振りになることもある。概ね、打率は3割と思えば良いであろう。

基礎研究が上手くいって、臨床応用される場合は非常にまれであるが、かと言って、基礎研究に取り組まないのは、大きな誤解である。富士山が高いのは、広い広いすそ野があるからである。その裾野のような幅広い研究テーマが必要であるが、そのようなテーマは光が当たりにくいし外部資金も摂りにくい。ここにOBがサポートする場があるのである。

以上が、松尾先生のメールです。

大学間の交付金に差があるのは、腹立たしい思いもありますが、格差のない社会では、寄付文化は育たないと言います。この格差を多少でも埋めることのできるのは、先生方からの寄付を置いて他はありません。因みに所得税の寄付控除も所得の40%にまで引き上げられております。

来年に迫った周年事業にあたり、一社神緑会としては2億円の寄付を目標にしております。24年度卒の坂上 明先生から巨額の寄付を頂き現在のところ7合目あたりに達したようです。目標達成に向け会員の先生方の神大医学部へのさらなるご支援を切にお願いいたします。

平成30年10月末時点での寄付者数です。

() 内の数はこの4か月間(7-10月)に新たにご寄付頂いた増加人数です。

卒業年 (和暦)	寄付者数 (人)	卒業年 (和暦)	寄付者数 (人)	卒業年 (和暦)	寄付者数 (人)	卒業年 (和暦)	寄付者数 (人)
昭和24年	3 (2)	昭和41年	5	昭和58年	10 (3)	平成12年	4
昭和25年	1	昭和42年	8 (1)	昭和59年	9	平成13年	5
昭和26年	1 (1)	昭和43年	11 (1)	昭和60年	10	平成14年	3
昭和27年	4 (1)	昭和44年	6 (3)	昭和61年	15	平成15年	3
昭和28年	3	昭和45年	9 (3)	昭和62年	4 (2)	平成16年	2
昭和29年	4	昭和46年	9	昭和63年	5 (1)	平成17年	1
昭和30年	0	昭和47年	5 (1)	平成元年	6 (1)	平成18年	1
昭和31年	4	昭和48年	3 (1)	平成2年	8 (1)	平成19年	4
昭和32年	1	昭和49年	7 (2)	平成3年	4	平成20年	2
昭和33年	1	昭和50年	5 (1)	平成4年	4	平成21年	2
昭和34年	4 (2)	昭和51年	5 (1)	平成5年	5	平成22年	3 (1)
昭和35年	4	昭和52年	16 (1)	平成6年	5	平成23年	2
昭和36年	4	昭和53年	6 (2)	平成7年	3	平成24年	1
昭和37年	7	昭和54年	5 (2)	平成8年	2	平成25年	0
昭和38年	2	昭和55年	9 (1)	平成9年	9 (2)	平成26年	1
昭和39年	3	昭和56年	14	平成10年	8 (1)		
昭和40年	10 (5)	昭和57年	8	平成11年	4		
						寄附合計 人数	332名 (41)

(H30.10末)

金額 ¥130,056,515 (H30.6末) → ¥134,956,515 (H30.10末)

※その他

- ・ 学生時の寄付 1 2017年ご卒業の先生
- ・ 正会員イ 3
- ・ 特別会員 26 (注) 2015年6月末時点の特別会員ご登録の先生
- ・ 名誉会員 10
- ・ S43卒業生からご寄付頂きました。
- ・ 東海支部からご寄付頂きました。

※総合計金額 ¥141,346,515

ご寄付のお願い

一般社団法人神緑会理事 宮崎 都志幸 (昭和51年卒)

神戸の青い空

平成29年より神緑会の理事をさせて頂いております昭和51年卒の宮崎都志幸と申します。私は昭和45年に神大医学部に入学いたしました。実家は福井にあり、18歳まで福井で生まれ育ちました。皆様ご存知かと思いますが、福井では冬には雪が積もります。今は温暖化であまり積もらなくなりましたが、当時はかなりの積雪があり、毎年根雪になりました。昭和38年の豪雪時には1階の屋根まで雪が積もり2階から出入り出来るほどでした。玄関から外に出るアクセスを確保するのが大変でした。冬には毎日のように1日中、灰色の雲が垂れ込み、昼でも屋内では灯りが必要なほどでした。吹雪の朝は、通行人に踏み固められた細い道を、横殴りの雪に傘を向けつつ登校しました。このような厳しい気候につけ私の父は口癖のように「神戸は良いぞ。冬には真っ青な青空が広がっている」と言っておりました。実は、父は戦後の数年間を神戸で過ごしたことがあったのです。その時の神戸の冬の青空を忘れられなかったのでしょうか。私は冬の気候の厳しさが辛いとは思いましたが、物心ついてからずっとそのような生活をしておりましたので、そんなものだと思います。しかし、父の言葉は私の心に残り、どんな空なのだろうと思い描いておりました。その頃にはまさか自分が神戸に来るとは夢にも思っておりませんでした。しかし、運命の導きか神戸大学に入学することになったのです。初めて六甲キャンパスに上がって神戸の街と海と青空を見た時の感動は今も蘇ってきます。神戸は本当に青が似合う街です。初め

での神戸の冬を経験した時、父が言っていた意味がよくわかりました。電車の車窓から六甲山を眺めた時、山の上にどこまでも広がる真っ青な空。それを見たとき父の言葉が蘇りました。

(ここで拙句二つ)

北陸の冬を灯ともし昼餉かな
六甲のあおぞら眩し山眠る)

爾来、神大医学部と関わりながら約50年暮らしておりますが、ここに来て本当に良かったと思っています。医学部時代は勉学少しと、軽音楽同好会、旅行やスキーなど青春時代を謳歌できました。卒業してからも大学病院での研修、公立日高病院、第1内科医局での研究、大阪府済生会中津病院、兵庫県立成人病センター、公立神崎総合病院、と大学の関連病院で研鑽を積むことが出来ました。平成19年からは有料老人ホームに併設されておりますエレガノ摩耶クリニックで開業医生活を送っております。

自らが歩んできた道を振り返ってみる時、神大医学部の存在が自分にとっていかに大きなものであったか思い知らされます。お世話になった医学部の創設75周年、その前身である神戸病院創設150周年は、神大医学部の歴史の中でそれを見ると、大変に意義のあることであると、この拙文を書いていて改めて思います。皆様も、神大医学部で学ばれ、多感な時代を過ごされたと思います。あの頃を思い出し、これからも学部が発展し後輩が我々以上に良き学部生活を送り、また、臨床、研究で活躍できるよう皆様のご協力よろしく願いいたします。



スポーツ大会の開催について

2018年度大倉山祭実行委員長 大野 聖 真 (4回生)

10月20日、鶴甲キャンパスで当日は晴天のもと、無事開催できました。スポーツ大会は白熱した試合を繰り広げ、大盛況で終わることができました。

結果といたしましては、1位5年生チーム、2位6年生チーム、3位2年生チームとなりました。

今年の寄付金ですが、11月19日現在179人の方

から寄付を賜り、146万円となっております。去年より少ないので引き続きよろしくお願ひします。

大倉山祭の詳細については、次号に報告します。同様に医療シンポジウムとして11月10日「うつと薬」が開催されました。



神戸大学医学部医学科 平成19年卒 同窓会開催のお知らせ

開催日時：2019年2月9日（土）

午後0時半 開場

午後1時 開宴

開催場所：神戸ポートピアホテル 本館地下一階 和楽の間

会 費：1万円（見込）

およそ2時間半の開催を予定しています。平服でお越しください。

招待の対象者は神戸大学医学部医学科平成19年卒もしくは平成13年入学の計103名です。

子育て中の先生方の参加を歓迎いたします。同日夜に二次会の開催も予定しています。

皆様のお越しをお待ちしております。

郵送・メールでのお知らせを希望される方はお名前・ご連絡先を明記の上
marin@med.kobe-u.ac.jp（病理学分野・西尾）までご連絡ください。

平成19年卒同窓会幹事：篠崎健太（神緑会幹事）、宮田吉晴
中野（小原）佳子、西尾（渡邊）真理

循環器内科は神緑会員の急性冠症候群をお救いします !!

循環器内科 講師・病棟医長 田中 秀和 (昭和61年卒)

急性心筋梗塞や不安定狭心症、さらにそれらに合併する心臓突然死までの一連の病態を包括して急性冠症候群と呼んでいます。いずれも心臓を栄養する冠動脈の動脈硬化によって生じたプラーク（中にコレステロールを含むかさぶた状のもの）が崩れ、そこに血栓が付着することが原因とされています。高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙、肥満、加齢などは冠動脈内に非常に破裂しやすいプラークを形成しやすいといわれています。これらは冠危険因子と呼ばれており、急性冠症候群の発症予防のためには、冠危険因子への治療介入が必要です。

急性冠症候群を発症すると、多くの場合緊急の力テール治療（PCI:経皮的冠動脈インターベンション）が必要となり、閉塞（狭窄）した冠動脈を速やかに開通させなければいけません。急性冠症候群による死亡の半数は、症状が現れてから3~4時間以内に起きており、治療の開始が早ければ早いほど、生存の可能性が高くなり、また心臓のダメージも少なくなります。まさに時間との戦いです。循環器内科では24時間体制で循環器疾患全般の診療にあたっていますので、神緑会員の先生方で急性冠症候群を思わせる症状が現れましたら、CCU当番医の直通電話（078-382-2415）まで速やかにご

連絡ください。循環器内科の専門スタッフが最適な医療を提供いたします。よろしくお願いいたします。



神戸循環器リンク



患者様へのご説明

♥現在の医療では、医療機関同士が協力、連携して役割を果たすことが必要不可欠となっています。そのため、当院 循環器内科と、神戸市及びその周辺の複数の連携病院の間で「神戸循環器リンク」という連携システムを構築しました。

♥神戸大学医学部附属病院（神戸大学病院）循環器内科の社会的役割は、高度な循環器医療をより多くの方々に提供することです。

♥そのため、当院に入院されて専門の治療を行った後に、病状などを総合的に考慮して、当院循環器内科と連携する病院へ転院していただくうえで治療を継続する場合があります。

♥また、当院外来通院にて加療中の場合でも、病状から考慮して、連携病院での加療が適していると考えられる場合には、連携病院での入院加療をおすすめする場合があります。

♥連携病院では、患者さんの治療について神戸大学病院と協力し密な連携を取りあって治療を行います。

♥疾患や状態等によって転院していただく病院は異なります。

♥転院後の、当院での治療継続については、あらためて主治医からご説明があります。



大学病院と連携病院が協力して患者様をしっかりとサポートします！

「神戸循環器リンク」連携病院

- 神戸百年記念病院
- 三菱神戸病院
- 神戸赤十字病院
- 神戸労災病院
- 神鋼記念病院 他



※神戸大学病院循環器内科ホームページでもご案内しています。
<http://www.med.kobe-u.ac.jp/iml/index.html>
 ※ご不明な点がございましたら循環器内科の主治医にお聞きください。

編集後記

今回は、6学年（S33、43、53、60、H10、20年卒）が対象学年のホームカミングデイ、学生の大倉山祭が無事終了しました。卒業生の参加が少ないので、今年度は各学年10名以上の医学科企画への参加を呼びかけました。土曜日に働いている医師がいるのも理由かと思いますが、残念ながら今年も……でした。第2回美術展示、混声合唱団の立ち上げはしっかりスタートしました。学生も数年前までの雨か曇りの天候が改善しました。ただ、4年生のカリキュラムが変更され、OSCE、CBTの影響で11月18日開催でした。スポーツ大会以外は次号報告です。

連絡ミスで学術誌（8月末印刷）掲載すべき内容を今回の報告となりました。大変失礼しました。出身高校のミスは、大学提供の内容に初めてのミス（これまでは指摘がなかったのか？）を会員の指摘で訂正しました。ただ、全国を騒がせている問題同様、入試関連の話は大学の専権事項（学務部提供など）ですので、今後の見守りを強化する必要があります。

大北教授の退職に際しての報告も時間が経過し、申し訳ありません。「留学のすすめ」は案外きずかれなかった名医の側面皆さんの評価が変わる重要ポイントと期待しています。信念を曲げなかった職人肌とも言えるでしょうか。

編集委員会

神緑会ニュースレター 第10巻第3号

発行 一般社団法人神緑会
 会長 前田 盛
 〒650-0017
 神戸市中央区楠町7丁目5-1
 神戸大学医学部内
 TEL (078) 361-0616
 FAX (078) 361-0617
 sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷 交友印刷株式会社
 〒650-0047
 神戸市中央区港島南町5丁目4-5
 TEL (078) 303-0088
 FAX (078) 303-1320
 info@koyu-p.co.jp

リスクや将来への備えは万全ですか？

医師は高度専門職であるため、**研修医・勤務医・開業医**といったそれぞれの立場に対して多様なリスクが存在します。また、生涯を通じた働き方・働き場所として様々な選択肢があり、**収入やライフプランも進路によって大きく変わっていきます。**

神緑会では東京海上日動火災保険㈱と連携し、会員の先生方にメリットのある「**リスクと将来への備え**」をご案内いたします。

医師を取り巻く多様なリスクとは…

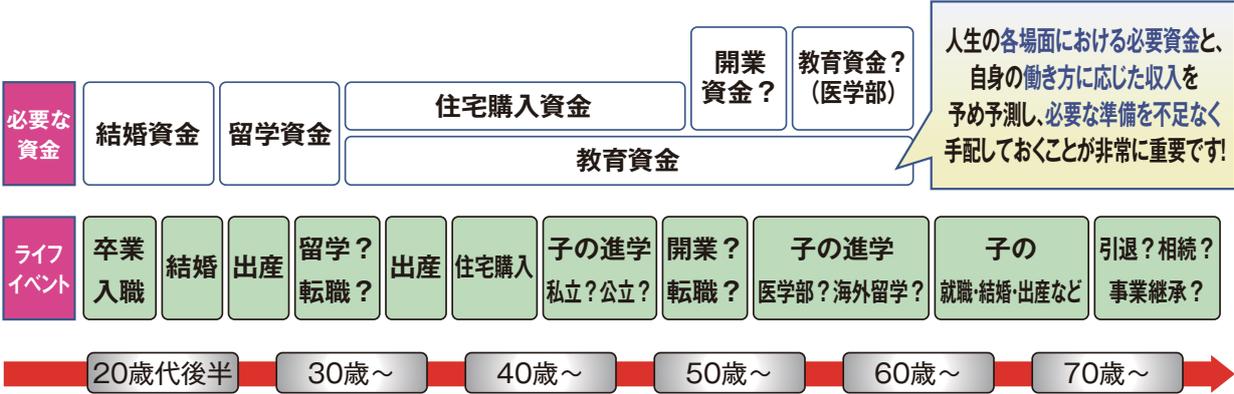


神緑会会員のための「**医師総合補償制度**」を発足しました！

- 充実の**9つの補償**！
- 団体割引25%**適用で保険料が割安！
- 会員なら**診療科・勤務地によらず**加入可能！
- 研修医/勤務医/開業医それぞれに応じた**推奨プラン**をご用意！
- 掛金は口座振替**で加入が簡単！

詳細は同封の書類をご覧ください、ぜひこの機会にご加入をご検討ください！

医師に必要なライフプランの考え方とは…



専門家によるライフプラン作成・資産形成・節税・相続に関する相談サービスを開始します！
(詳細は別紙資料をご参照下さい)



Premium Moment

すべての^{とき}刻に、豊かさを。

(完成予想図)
建物自社所有
土地:普通借地(アーク不動産株式会社・平成29年契約)

住友林業のシニアレジデンス

エレガーノ西宮

2020年春 開設予定



見学受付中
シニアレジデンスギャラリー
完全予約制

エレガーノ西宮シニアレジデンスギャラリー 〒663-8032 西宮市高木西町4番22号

0800-100-2438
(10時~17時・毎土曜定休日)

- 一般居室全戸南向き(219戸)
- 同一建物内クリニック(別法人)開設予定
- 専門講師による文化系・スポーツ系プログラム
- 全戸Wi-Fi環境を整備(309戸)
- 全面的な支援に備え介護居室を併設(90戸)

【施設概要】●所在地/西宮市津門大塚町1-17 ●交通/阪急神戸線「西宮北口」駅より徒歩16分(約1,280m)、JR神戸線「西宮」駅から徒歩11分(約880m)、阪急今津線「阪神国道」駅より徒歩4分(約320m) ●構造概要/鉄筋コンクリート造地上14階建2棟、5階建1棟 ●居室数/総居室:309戸(一般居室219戸、介護居室90戸) 【西宮市サービス付き高齢者向け住宅運営指導指針による表示】 ●類型/サービス付き高齢者向け住宅 ●居住の権利形態/利用権方式 ●利用料の支払い方式/一部前払い一部月払い方式 ●入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護 ●介護保険/在宅サービス利用可 ●生活支援サービスを提供する人数/看護師8名、介護支援専門員1名、介護福祉士15名、上記以外の職員14名合計38名(予定) ●常駐する時間/9時~17時30分14名、17時30分~9時4名(予定) 【住み替えについて】24時間の支援が必要になった場合、介護居室にお住替えいただけます。○居住面積の減少あり○利用に関する権利の変更なし○追加費用なし○費用に関して面積の減少に応じた調整が行われる場合もあります。【協力医療機関】明和病院●所在地/西宮市上鳴尾町4-31 ●診療科目/総合診療科・消化器内科・腫瘍内科・循環器内科・呼吸器内科・血液内科・糖尿病/内分泌科・消化器外科・乳腺/内分泌科・呼吸器外科・整形外科・リハビリテーション科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科/にきびセンター・形成外科・泌尿器科・歯科口腔科・麻酔科・腎・透析科。

経営・運営主体 **スマリソケアライフ株式会社** (住友林業株66.7%出資)
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号(国際健康開発センター3階) TEL.078-261-6665
(公社)全国有料老人ホーム協会会員 (一社)全国介護付ホーム協会会員 www.s-carelife.co.jp FAX.078-261-6662

メルマガ会員募集中!
詳しくは **エレガーノ西宮** 検索

